



デイリー・ジーザス・ニュース #349

天国におけるイエスの永遠の奉仕

初代教会における復活したイエスの継続した言葉と働き

イエスはステファノの死の証人、仲介者として立ち上がる

使徒行伝7章54-60節

=====

54 議会の議員たちはこれを聞いて、心の中で激しく怒り、イエスにむかって歯ざしりをした。 55 しかし、ステパノは聖霊に満たされ、天を見つめて、神の栄光と、神の右に立っておられるイエスを見た。

56 イエスは言われた。 「見よ、天が開けて、人の子が神の右に立っておられるのが見える。」

57 彼らは耳を塞ぎ、大声で叫びながら、一斉にイエスに襲いかかり、 58 町の外に追い出し、石を投げつけた。証人たちは、サウロという若者の足元に自分の上着を置いた。

59 彼らがステファノに石を投げつけているとき、ステファノは祈って言った。 「主イエスよ、私の霊をお受けください。」 60 それから、彼はひざまずいて大声で叫んだ。 「主よ、この罪を彼らに負わせないでください。」 こう言い終わると、ステファノは眠りに落ちた。

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルカ = ^L、ヨハネ = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書を識別します。さらに、**赤いイタリック体はイエスの言葉を示します**。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト

位置	エルサレム
タイムライン	ペンテコステから約6年後

イエスの生涯の文脈	第9段階：イエスの復活と永遠の宣教
	イエスの永遠の奉仕
	初代教会における復活したイエスの継続した言葉と働き
タイトル：	イエスはステファノの死の証人、仲介者として立ち上がる

ステファノは最初のキリスト教殉教者でした。彼はイエスの最初の弟子ではなかったため、私たちにとって特に重要な人物でした。ステファノは私たちと同様、使徒たちの福音（四福音書に記録されている）を通してイエスを知り、主ご自身に導かれてイエスを信じるようになりました。そして、イエスから内在する聖霊を受け、同じ聖霊の力によってイエスに従い始めました。わずか6年の間に、ステファノは信仰と愛に満ちた力強い人物へと成長し、イエスのメッセージを驚くべき力で宣べ伝えました。彼がキリストに似た者であったことは、十字架上でイエスが捧げたのと同じ祈り、すなわち敵の赦しを求める祈りを彼が捧げたことに明らかでした。

天に現れなかった復活したイエスの存在は、石打ちにかけられていたステファノの目に明らかになりました。この殉教者は、イエスが「神の右に立っておられる」のを見たと言いました。これは重要な意味を持ちました。なぜなら、新約聖書ではイエスが「神の右に座しておられる」と一般的に述べられているからです。この座る姿勢は詩篇110篇の言葉と一致しており、これはDAI LY JESUS NEWSの過去の記事でも取り上げたように、旧約聖書と福音書におけるイエスの生涯を描写する重要な聖句です。

「主は私の主にこう言われました。

「わたしがあなたの敵をあなたの足台とするまで、わたしの右に座っていなさい。」

イエスはステファノの死に際して神の右に「立ち」、ご自身がいかに深く関わっていたかを示しました。ステファノを迫害することは、実際にはイエス自身を迫害することでした。なぜなら、ステファノと彼の主は聖霊によって一つに結ばれていたからです。イエスはそこにいて祈り、ご自分の僕が死に至るまで忠実であり続けるよう力づけました。天におられたイエスは、地上でも目に見える形で活動されました。

英語の「martyr」殉教者）は、新約聖書で「証人」を意味するギリシャ語（martyrs）に由来しています。殉教者とは、迫害や死をも厭わずイエスの真実を忠実に伝える証人です。イエスは殉教者でした。ステファノは教会時代における多くの殉教者の先駆けでした。イエスは天に生き、御霊によってすべての民をあらゆる国の人々に弟子とする務めにおいて、すべての民を力づけて

くださっています。それは、殉教者イエスの後に喜びをもって従ったステファノの模範に、私たち皆が従うことができるためです。

迫害者パウロ（当時はまだ「サウロ」と呼ばれていた）は、ステファノを石打ちで殺害するという違法行為に全面的に賛成していた。彼は汚れ仕事をした者たちの外套を握っていた。しかし、天のイエスはこの経験を利用してパウロに自身の要求を押し付けた。ステファノの死は、しつこいキリスト教徒たちが口にし続けていたイエスの死の完璧な再現だった。パウロがキリスト教徒を迫害すればするほど、彼らはイエスが敵であった時代に彼らの赦しのために命を捧げることで最初に与えてくれたと主張する無条件の愛をパウロに示した。イエスからの同じ愛と赦しは、エルサレムの教会を荒廃させたパウロにも絶えず向けられていた。

の死の物語がパウロにとって、罪を悟らせる力を持つ生き生きとしたものとなった。わずか数週間後、迫害者サウロはダマスコへの道で、イエスの12回目の復活の出現によってイエスと対面し、使徒パウロへと変貌を遂げることになる。

ステファノの死―天で復活したイエスの御前で―は、イエスがパウロを信仰へと導くための重要な転換点となりました。このように、復活した主は、忠実な殉教者を通して、パウロに働きかけます。

応用：

今日の世界では、キリスト教徒への迫害と殉教が急速に増加しています。現代において、教会史上、かつてないほど多くのキリスト教徒が信仰ゆえに迫害されています。天のイエスはこのことを深くご存じです。イエスの永遠の使命の一つは、ステファノのような弟子たちを強めることです。そうすることで、私たちは皆、主の名のために苦しむ機会を大きな喜びと尊い栄誉と捉え、主への愛ゆえに命を捨てるという宝物に勝るものと見なせるようになります。イエスに従うことは真剣なことです。そして、主が与えてくださる恵みと力もまた真剣なことです。なぜなら、主は生きておられるからです。

証しの働きにおいて、イエスのために苦しむ決意をどのように強めますか。